

成人式を迎えられた皆さんに

検察審査会制度を

ご存じですか

ご存じのとおり成人になられると、いろいろな権利が認められます。皆さんに認められる重要な権利の一つとして選挙権があります。同時にぜひとも記憶にとどめておいていただきたいものがもう一つあります。それは、検察審査会の審査員に選ばれる資格を持つということです。そこで、検察審査会という制度について簡単に説明いたします。

を起訴してくれない。このような場合に、検察官の不起訴処分不服のある人の申し立てを受けて、事件を調べ直し、検察官の処分がよいかを審査するのがこの制度なのです。検察審査会は、選挙人名簿の中からくじで選ばれた十一人の審査員によって構成されます。成人になられた皆さんは、この検察審査員に選ばれることがありますので選ばれたときは進んでこの仕事にご協力いただきたいと思えます。

なお、詳しくは高知検察審査会（高知市丸の内一丁目三十五番地）の裁判所内、☎0340）までお問い合わせください。

無料

交通事故 ご相談

●電話のご相談もお受けします

☎0888-25-0318(直通)

相談日：月曜から金曜午前9時～午後4時40分

◎専門の相談員が親身になってご相談にのります

◎弁護士相談日：毎月第1金曜日午後1時～4時

損害法人 日本損害保険協会
高知自動車保険請求相談センター

高知市本町2-16安田大共高知支店2階(電停大塚通車) 高知調査事務所 ☎0888-25-0315

—— 同和教育シリーズ ——

部落はいつ、だれが、なんのために

つくったのでしょうか①

結論から言えば、部落は江戸時代に、徳川一族が征夷大將軍として天下を支配するための新しい社会作り(徳川幕藩体制)を強力に進めましたが、この過程で政治的に作られたものです。

徳川氏の社会作りの基本は「身分制度」でした。武士の子は武士、百姓の子は百姓として、生まれるときから身分が決まられていました。

武士は大名や將軍に仕えて禄を受け、主君のためには命をかけて忠義を尽くすが任務とされました。

征夷大將軍は、徳川一族が世襲し、跡継ぎのない場合は、水戸、尾張、紀州の親藩から將軍を出して、大名を統率して天下を支配しました。

このシステムが「徳川幕藩体制」で、これを維持する基本が「身分制度」なのです。分(身分)を知り、分を守り、分に応ずることを政治、経済、教育や文化の総力を結集して、すべての人びとに徹底したのです。

徳川氏が、どうしてこのような社会を作ろうとしたのでしょうか。それは、江戸時代の前の時代すなわち戦国時代にその理由があるのです。

戦国時代は、約百年間、日本全土で群雄が割拠し、戦争に明け暮れた時代です。二四六七(応仁)年、足利八代將軍義政の後継問題から、細川、山名の有力大名が戦(応仁の乱)を始めたのが引き金となり、約十年間、京都を主戦場に戦争したため、京都は焼け野が原になりました。

応仁の乱後、地方に広がった戦乱は、十六世紀に入りますます広がり全国に拡大していきましました。

農村では、地侍や農民たちが、共同的な郷村組織を土台に武装して、大名に対して集約的に抵抗していきましました。それが土一揆です。

りました。そうした中で農民たちは、土地を自分のものにしていき、土豪や地侍の使用人であった下人たちも独立して小農民となっていきました。さらに、中世の賤民であった河原者も経済力を蓄えて独立し、商人や手工業者となり、なかには武士や領主になっていった者もあるのです。

戦国時代を一口に言えば、革命の時代であり、実力者の社会、特に「下剋上」の社会風潮が激しかった時代でした。下剋上とは、実力のある下の身分の者が力のない上の者を倒して、自分が主座についても良いとの考え方です。

この時代には、家柄とか身分に関係なく、実力ある者が支配者になれた時代でした。古い秩序や因習は打ち破られ、代わって新興の勢力は次々におこり、山崎の油売りであったといわれる斎藤道山が、美濃の支配者となり、それまで卑しい業とされていた鍛冶屋や桶屋から、福島正則、加藤清正などの大名が生まれ、足輕の子の豊臣秀吉が天下人になれたのです。

(つづく)